

ふるさとわがまちづくり

芳友町自治区

◆「芳友町」のむかし

山裾を走る一本の道に沿って、新緑に包まれた小さな集落が点在しています。ここ芳友町自治区は、足助町に近い山あいのまちです。戸数はわずか36戸、騒音も公害もない静かなまちです。

芳友町の町名の由来は芳友寺です。芳友町は、数十年前から土地、住宅ブームもなく、今までの山河と少しも変わらず何もかも昔のままです。

平成5年10月の中京ゴルフ石野コースの開場に伴い河川改修、道路整備等が行われ山あいのまちも都市化の波が徐々にではあるが、押し寄せてきています。

都市化の影響を受け「昔は炭焼きや蚕で生活しとったんだが、今ではみんな若い者は車で外へ働きに行きよるでな。」と古老は話します。さらに昔の思い出を「大正の頃までは、歌舞伎や狂言をみんなで夜遅くまで練習したり、猿投神社の棒の手にホラ貝を吹きながら行ったもんだ。」と話します。



少し歩けばまちの端から端まで行くことができます。椿というわずか4戸ほどの山頂近くの集落には、城のような石垣に目を見張ります。これは、昔の庄屋さんの屋敷跡で大きな豪商だったと言います。この屋敷の前の道は、今の飯田街道の前身で広瀬方面と足助を結ぶ当時の重要な交通路だったと聞いています。

また、「小林家という江戸・明治にかけての豪商で、紙の原料のコウゾの取引や生糸の全盛期には繭の大問屋として『椿、小林、高石垣』と歌にまで歌い、大八車を押してここまで荷を運んだ」と言い伝えられています。かつての交通と産業を背景にした大商家で、人目を引く石垣も彦根城と同じ穴太(あのを)式という古い貴重なものです。

万灯祭り



◆万灯祭り

数百年は続いているといわれている万燈祭りは、毎年8月に盆の行事として子ども達を中心となって行っています。

麦わらで作った束に火を付けて振り回し、先祖の霊を慰めるもので、豊田市でも当地と小峯町の2ヶ所くらいしか残っていないと言います。



芳友町自治区データ (H20.4現在)

世帯数：36世帯
：34世帯(昭和52年)
組数：5組
面積：1.284Km²
回覧：月2回
ふれあい広場：1箇所
防犯灯設置箇所：18箇所
小学校：中金小学校区
自治区会館：芳友町公民館